

和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
ダイミョウセセリ	セセリチョウ科	セセリ的でないセセリ	○	○	○	全国



生田緑地 5月初旬 羽化したて



多摩川土手 中野島 6月上旬 ムラサキカタバミで吸蜜



オオミズアオ 生田緑地 8月下旬 いわゆる「蛾」
ハイムの玄関でも朝時々見かける。「夜活動、とまるとき羽を開く、
触角が櫛(くし)状、胴体が太い」という条件にはあてはまる

成虫発生時期 (月)											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
○ 食草			食樹			発生回数/年			越冬形態		
ヤマノイモ、ナガイモほか						3			幼虫		

イチモンジセセリやアオバセセリといった胴太の「セセリ体型」に比べると胴は細くすっきりして、羽も体の割に大きいのでシロチョウやシジミチョウといった普通の蝶に近い印象を受けます。

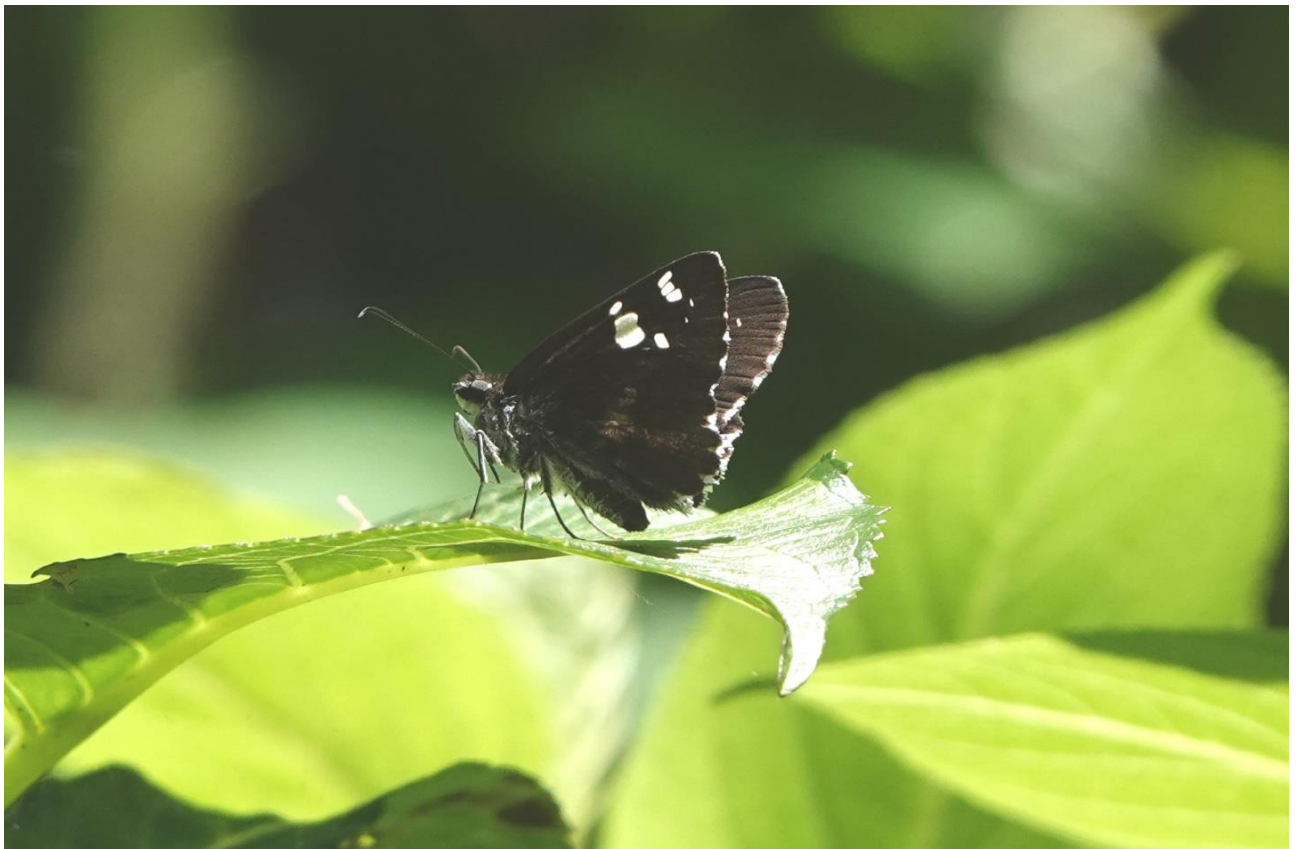
学者によってはセセリは蝶ではないという人もいるそうです。また、一方、昔々を思い出すと、小学校の理科で蝶と蛾の違いを習いました。「蝶は昼活動する、とまるとき羽を閉じる、触角がこん棒状、胴体が細い・・・」。今でもこんなことを教えているのでしょうか？英語でも蝶 (butterfly) と蛾 (moth) と分かれていて同じような説明がされています。

しかし、それぞれの区別項目には例外が山ほどあり、そもそも生物学的には二つを分ける意味はなく、フランス語には総称してPapillon (パピヨン) という言葉があるのみです。また、ドイツ語でも同様に区別はしないそうです。

ただ、日本語を大事にすると言う観点からは蝶と蛾という言葉があって、上記のような大まかな見分け方はあるが、例外だけであること、そもそも分けること自体にも余り意味はないということは知識として知っておいてよいでしょう。



高尾山 5月中旬 オオムラサキツツジで吸蜜



高尾山 5月中旬 テリトリーを張る